

令和3年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

令和3年6月

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校、中等教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校又は義務教育学校の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

令和3年2月21日に実施した学力検査に基づく入学者選抜には、約38,000人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校等においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の学習状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の学習状況の実態に基づいた指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等、「都立高校学力スタンダード」の策定に活用することができます。

区市町村教育委員会、中学校等及び高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の学習状況の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和3年6月

東京都教育委員会

目 次

I	令和3年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

参考資料

1	令和3年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集)	12
2	令和3年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集) 正答表	26

I 令和3年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。
- 4 平成30年度から実施の、教育課程の移行措置に配慮する。
- 5 新型コロナウイルス感染症対策における「緊急事態宣言」の発出に伴う東京都内中学校等の臨時休業の実施状況を踏まえ、出題範囲について配慮する。

II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を中学校、義務教育学校及び高等学校に提供することで、各学校における教科指導の改善に資する。

III 調査内容

令和3年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（令和3年2月21日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数の受検者を抽出した。
小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

IV 調査結果

1 概要

(1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
32,903人	32,905人	32,723人	36,626人	36,626人

(2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
154校	154校	153校	163校	163校

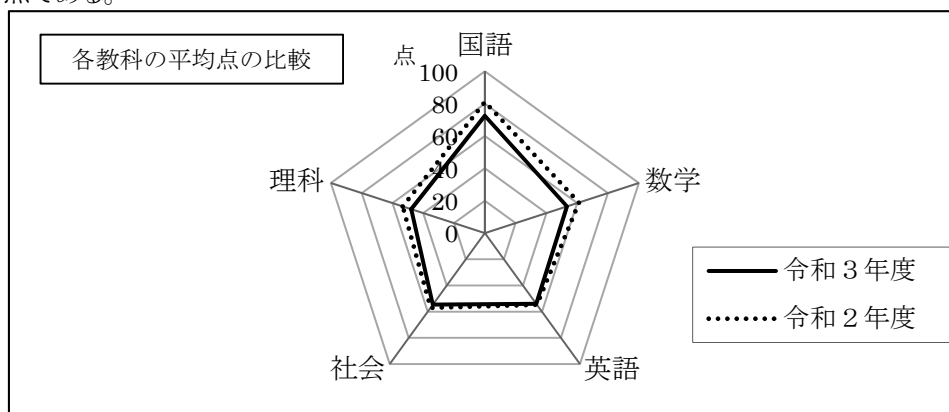
(3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
72.5点 (81.1点)	53.3点 (61.1点)	54.1点 (54.7点)	54.6点 (57.0点)	47.8点 (53.4点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるなど採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、令和2年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



2 各教科

(1) 国語

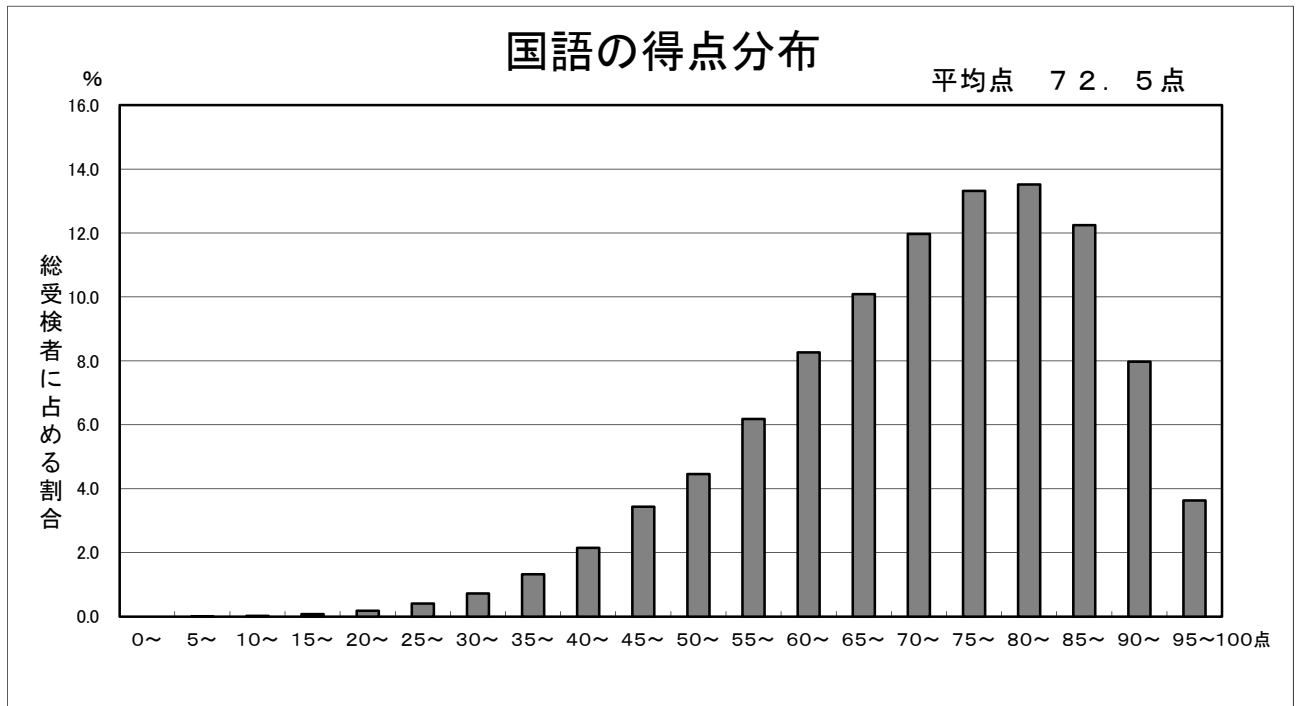
ア 出題の方針

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるとともに、伝え合う力や思考力及び想像力を総合的にみる。

イ 各問のねらい

- 1 漢字を正しく読む能力をみる。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる。
- 3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。
- 4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。
- 5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、古典並びに現代の語句及び資料の内容について理解する能力をみるとともに、発言の役割を理解することを通して伝え合う力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は72.5点となり、昨年度より8.6点下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の95点～100点から80点～84点に移り、85点以上の受検者の割合が53.0%から23.8%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- ① 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
 ② 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
 ③ 祖父が営む染織工房を舞台として、主人公と祖父のやり取りが描かれた小説を読み、表現の特徴や登場人物の様子、心情などを読み取る問題とした。
 ④ 記憶の拠り所として建築が果たす役割について論じた文章を読み、文脈に即して内容を正確に読み取る問題、文脈から段落の役割を捉える問題、筆者の主張を正確に読み取る問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に分かりやすく伝える力を見る問題とした。
 ⑤ 「方丈記」と鴨長明に関する対談及び古典の一部を読み、要旨を的確に捉える問題、話の進め方の特徴を読み取る問題、語句の働きや意味を答える問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- ① (2)「とおして」と表記する誤答が多かった。
 ② (1)「飛んだ」と書く誤答が多かった。
 ③ [問3]では、「ウ」という誤答が多かった。これは、祖父が息子の生き方を肯定しつつも息子が自立して自分から離れる際に抱く切ない感慨について、登場人物の言動や関係性の描写を基に丁寧に読み取る力が十分ではなかったためと考えられる。
 ④ [問1]では、「イ」という誤答が多かった。これは、「複合的で抽象的な懐かしさ」という感情は、「実体的な場所に出会う」ことで「記憶の回路」がつながり湧き上がるということ、叙述や文脈からの的確に捉えることができなかつたためと考えられる。また、[問3]では、「エ」という誤答が多かった。これは、文章の構成や論理の展開を的確に捉えることができなかつたためと考えられる。
 ⑤ [問1]では、「エ」という誤答が多かった。これは、「方丈記」に関する対談の展開を踏まえ、対象となる駒井さんの発言の役割を的確に理解することができなかつたり、前後の内容と関連付けて読み取ることができなかつたりしたためと考えられる。また、[問4]では、「イ」という誤答が多かった。これは、鴨長明の情熱や人間臭さを表すために蜂飼さんが発言した「そういうところ」という表現の指し示す内容について、前に述べられている発言と関連付けて理解することができなかつたためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	93.2%	92.4%
	(2)	2	80.5%	
	(3)	2	90.7%	
	(4)	2	99.0%	
	(5)	2	98.4%	
2	(1)	2	47.8%	69.9%
	(2)	2	93.3%	
	(3)	2	69.3%	
	(4)	2	69.9%	
	(5)	2	69.0%	
3	※ [問1]	5	75.5%	74.6%
	※ [問2]	5	84.3%	
	※ [問3]	5	60.3%	
	※ [問4]	5	84.4%	
	※ [問5]	5	68.3%	
4	※ [問1]	5	63.6%	☆69.6%
	※ [問2]	5	74.8%	
	※ [問3]	5	56.3%	
	※ [問4]	5	77.9%	
	[問5]	10	☆75.5%	
5	※ [問1]	5	49.9%	51.6%
	※ [問2]	5	52.7%	
	※ [問3]	5	52.2%	
	※ [問4]	5	51.5%	
	※ [問5]	5	*100.0%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(注3) *は受検者全員に一律5点を付与したため、大問正答率には含まない。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) ①の正答率から、漢字についての知識はおおむね身に付いていると考えるが、②の誤答の内容から語彙についての理解が十分ではない。日頃から、辞書等を活用して語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意させる指導や、多様な文章や表現に触れ、未知の語彙を、話や文章の中で使わせる指導などが必要である。
 (イ) ③の[問3]の正答率から、登場人物の心情や登場人物同士の関係性などについて描写を基に捉える力が十分ではない。文学的な文章の学習において、情景及び登場人物の描写や話の展開に着目して登場人物の言動の意味や理由について考えさせたり、登場人物同士がどのような関係にあるか考えさせたりする指導が必要である。
 (ウ) ④の[問1]、[問3]の正答率から、叙述や文脈などに即して、文章の論旨や構成を捉える力が十分ではない。説明的な文章の学習において、筆者の主張部分や文章中のキーワード、キーセンテンスなどを捉えて情報を整理させる指導や、段落のもつ役割について考えさせる指導が必要である。
 (エ) ⑤の[問1]の正答率から、話題や展開を捉えながら話を聞いたり話し合ったりする力が十分ではない。日頃の授業において、何についてどのような目的で話をしたり話し合ったりしているかといった、目指している到達点を常に意識させる必要がある。多くの発言によって考えを広げていく段階や、出された発言の内容を整理しながら考えをまとめる段階など、話し合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話を聞かせる指導が必要である。

(2) 数学

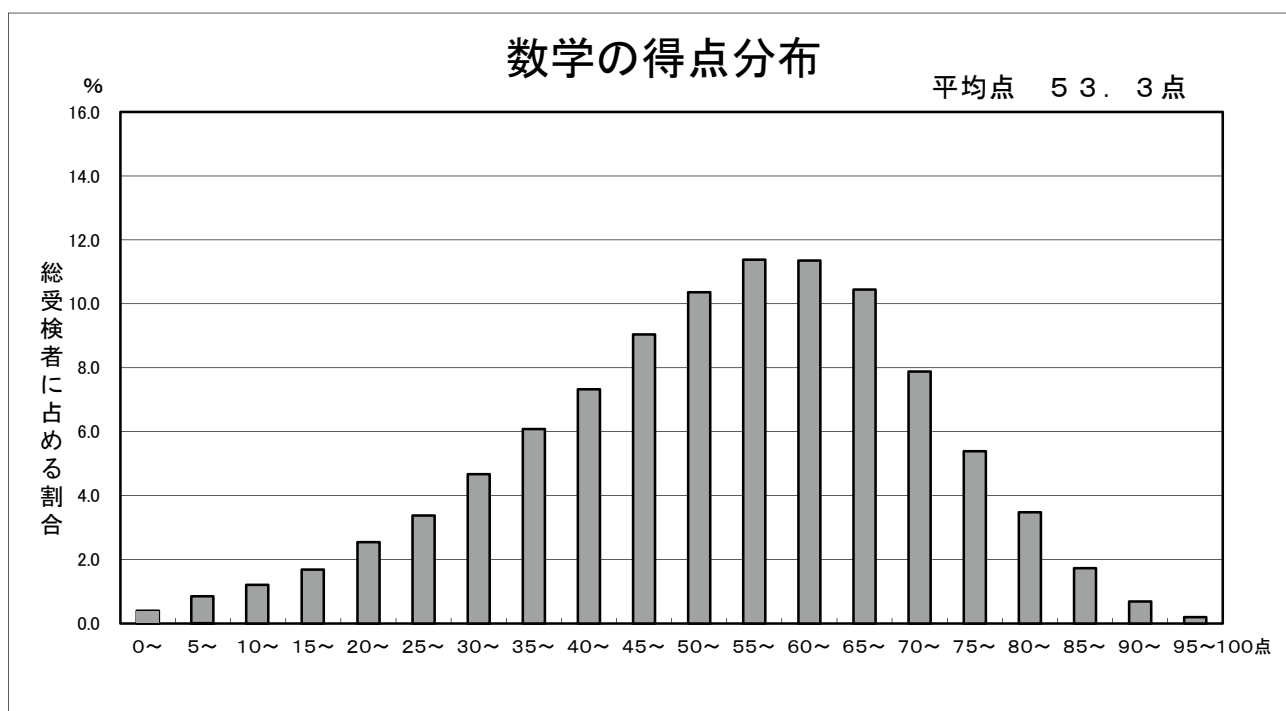
ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解をみるとともに、数学的な見方や考え方、数学的な技能に関する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，関数，資料の活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方や考え方に基づいて事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識・理解をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識・理解をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識・理解をみるとともに，図形に対する直観的な見方や考え方を基に，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は53.3点となり，昨年度より7.8点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度の65点～69点から55点～59点に移り，80点以上の受検者の割合が16.8%から6.1%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる問題とした。
- 2 正方形や円を題材として、正方形のタイルと正方形のタイルに描いた図形に囲まれてできる部分の面積について、数理的に考察し文字を用いて処理する能力や推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 一次関数を題材として、直線上にある点の座標を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、三角形の面積を考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 円と円に接する長方形を題材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、二等辺三角形であることを証明する問題、相似な三角形や合同な三角形を見だし、三角形の面積を求める問題とした。
- 5 三角柱を題材として、直線とねじれの位置にある辺の数を求める問題、三角柱の中にできる立体の体積を求める問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	[問 1]	5	88.3%	☆66.1%	
	[問 2]	5	62.0%		
	[問 3]	5	55.3%		
	[問 4]	5	84.6%		
	[問 5]	5	87.7%		
	[問 6]	5	54.8%		
	[問 7]	5	56.2%		
	[問 8]	5	46.6%		
	[問 9]	6	☆59.1%		
2	※ [問 1]	5	37.8%	☆26.1%	
	[問 2]	7	☆14.4%		
3	※ [問 1]	5	88.7%	54.7%	
	※ [問 2]	5	65.9%		
	[問 3]	5	9.3%		
4	※ [問 1]	5	64.8%	☆32.5%	
	[問 2]	①	7		☆32.3%
		②	5		0.5%
5	[問 1]	5	20.2%	11.9%	
	[問 2]	5	3.6%		

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問 2] では、「 $9a+5b$ 」という誤答が多かった。これは、誤って式全体を4倍し分母を消去したままにしたためと考えられる。
[問 3] では、「 $\frac{\sqrt{3}}{4}$ 」や「 $\frac{4\sqrt{3}}{3}$ 」という誤答が多かった。これは、根号を含む四則の計算の順序を誤ったためと考えられる。
- 2 [問 2] では、部分正答を含めて正答率が14.4%、無答率は60.3%であった。これは正方形のタイルと正方形のタイルに描いた図形に囲まれてできる部分の面積について、根拠に基づいて示すことができなかつたり、説明の見通しを立てられなかつたりしたためと考えられる。
- 3 [問 3] では、誤答率が44.4%、無答率が46.3%であった。これは、条件を満たす点の座標を、文字を用いた式で表し、その文字を用いて△APBの面積と△APQの面積の関係を表し、処理することができなかつたためと考えられる。
- 4 [問 2] ②では、誤答率が61.9%、無答率が37.6%であった。これは、与えられた図から解答を導くために必要となる相似な図形や合同な図形を見出すなどして、△PRCの面積を考察する見通しを立てることや、処理することができなかつたためと考えられる。
- 5 [問 1] では、誤答率が76.4%、無答率が3.4%で「7」という誤答が多かった。これは、直線に交わらない同一平面上にある辺を数えているため、ねじれの位置に関する理解が十分ではなかつたためと考えられる。
[問 2] では、誤答率が60.8%、無答率が35.6%であった。これは、三角柱の中にできる立体の高さを正しく捉え、高さを求めることができなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率から、基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能についてはおおむね定着している。しかし、[問 2] から分数を含む文字式及び[問 3] から分母に混合を含む数について、数の正しい理解と式を処理する技能を高める指導が必要である。4 [問 2] ②の正答率から、図形に関する基礎的・基本的な事項を活用したり、それらを組み合わせ考察したりする力が十分ではない。与えられた図形の中の合同な図形や相似な図形に着目して、相似な図形の性質などの既習事項を関連付けて考える場面を設けた指導を充実させる必要がある。
- (イ) 2の正答率や4 [問 2] ①の正答率が昨年度よりも低下していることから、推論の過程を的確に表現する力を育むことが課題である。問題文から条件を読み取り立式する指導、推論の過程を根拠に基づき相手に分かりやすく伝える指導を充実させる必要がある。また、考えたことなどを数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動を通して、正確に、分かりやすく表現する能力を一層高める指導が必要である。
- (ウ) 5の正答率から、空間内にある直線と平面の位置関係や、立体の中にできる平面等を的確に捉える力が十分ではない。実際に立体を作ることや、立体の見取図、展開図、投影図を用いてその図形のもつ性質を読み取るなどを通して、空間における図形の位置関係を捉えたり、空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導を充実させる必要がある。

(3) 英語

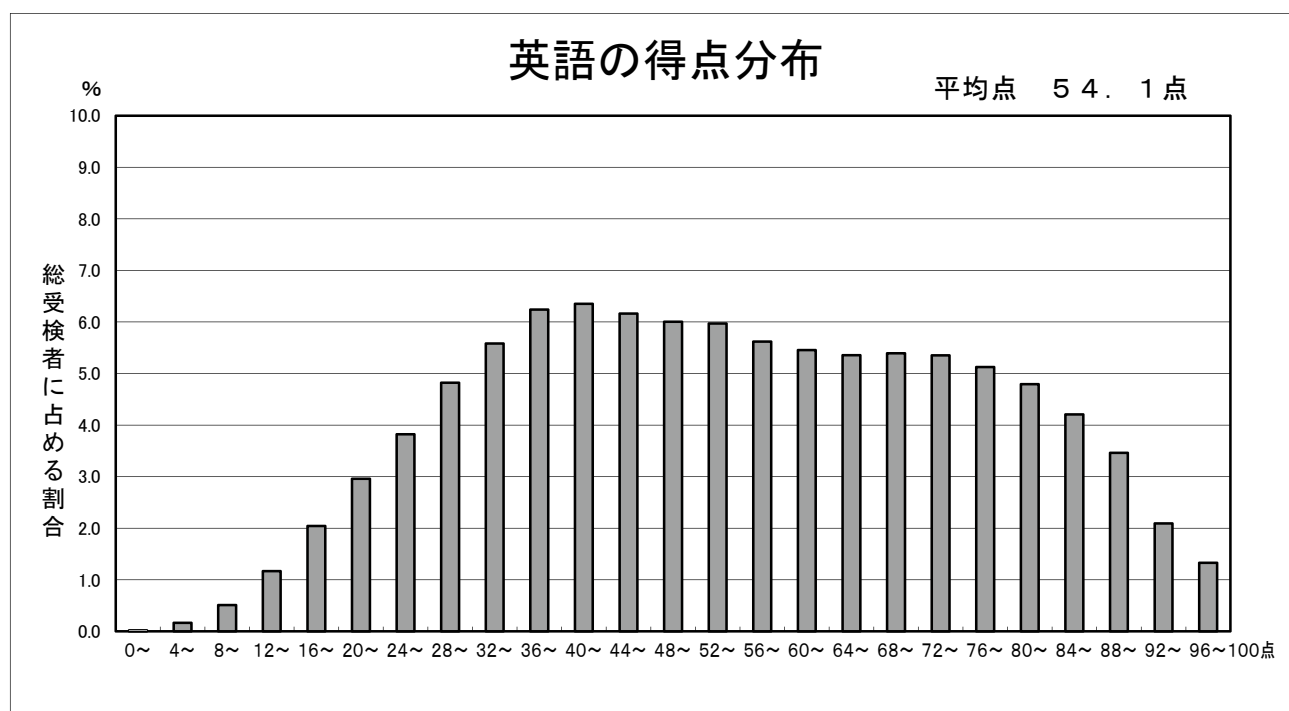
ア 出題の方針

初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解するとともに、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み、その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み、そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は54.1点となり、昨年度より0.6点下降した。

今年度は、分布のピークが昨年度の52点～55点から40点～43点に移り、80点以上の受検者の割合が16.0%から15.9%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

1 手伝いを依頼する対話や外国人の英語の先生が生徒に対して行った自己紹介などを聞き、具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。

2 高校生と留学生が、日本の伝統的なおもちゃを紹介したウェブサイトを見ながら、作るおもちゃを決めたり、留学生が帰国するまでの予定を決めたりする場面などを題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。

また、帰国した留学生からのEメールに返信する場面を設定し、主題である「誰かのために何かよいことをした経験」について、自分の経験やそれをした理由を英語で表現する能力をみる問題とした。

3 高校生と留学生が、英語と日本語の違いに関する体験を紹介し合うことをきっかけに、言語には多様な表現があり、状況や相手に応じてふさわしい表現を使うことが大切であることを認識する内容の対話文を読み、対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。

4 主人公は、友人に誘われ児童館でボランティアをすることになる。一人の小学生との出会いから仲良くなるまでのやり取りを通じて、課題の解決方法は皆同じではないことに気づき、相手の好きなことを手がかりに、一緒に取り組めること等を考えることで、課題を解決していく内容の物語文を読み、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

1 Aの〈対話文2〉では、「ウ」とする誤答が多かった。これは、対話から相手の意向を正確に把握することができなかったためと考えられる。また、Bの〈Question 2〉では、“She wants to know about their school.” などとする誤答が多かった。これは、質問の意図についての理解が十分ではなかったり、解答すべき内容を英語で正しく表現することができなかったりしたためと考えられる。

2 2では、「イ」や「エ」という誤答が多かった。これは、二人の対話と表の内容を読み解く際に、解答の根拠となる複数の情報を基に予定を決めるという課題を解決することができなかったためと考えられる。また、3(2)では、「誰かのために何かよいことをした経験」という主題に正対して書こうとしているものの、自分の考えを英語で正しく表現することができなかった解答が多く見られた。

3 [問6]では、「ウ」という誤答が多かった。これは、本文の大切な部分の把握が十分ではなかったためと考えられる。また、[問7]では、「エ」という誤答が多かった。これは、本文の対話の流れを正しく把握することや、本文で使用されている表現を別の表現方法で表す際に求められる文構造や語法についての理解が十分ではなかったためと考えられる。

4 [問2]では、「イ」と「ア」を取り違える誤答が多かった。また、[問4] (1)では、「イ」という誤答が多かった。これは、本文のあらすじや大切な部分の把握が不十分であったためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

(ア) 1及び2の正答率から、聞いたり読んだりしたことについて英語で書くなど、複数の技能を統合した学習活動をより多く取り入れ、学習した表現の定着を図る指導の充実が必要である。また、まとまりのある文章を聞いたり読んだりして、与えられた複数の情報の中から、必要な情報が何かを判断する力や、自分の考えを英語で表現する力を高める指導の充実が必要である。

(イ) 3及び4の正答率から、まとまった量の文章を用いて、登場人物の発言や行動などに注意して読む力や、対話の流れや物語のあらすじ、本文の大切な部分を把握する力を高める指導の充実が必要である。また、元の文章とは別の表現方法を用いて表現するような活動を通して、幅広い表現方法の定着を図る指導が必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	※A	〈対話文1〉	4	68.3%	☆52.1%
		〈対話文2〉	4	38.8%	
		〈対話文3〉	4	63.9%	
	B	※ 〈Question 1〉	4	74.2%	
		〈Question 2〉	4	☆15.3%	
2	※1		4	74.4%	☆47.8%
	※2		4	25.2%	
	3	※(1)	4	53.5%	
		(2)	12	☆38.3%	
3	※ [問1]		4	59.4%	53.1%
	※ [問2]		4	61.3%	
	※ [問3]		4	54.4%	
	※ [問4]		4	51.1%	
	※ [問5]		4	57.7%	
	※ [問6]		4	45.9%	
	※ [問7]		4	41.9%	
4	※ [問1]		4	76.9%	47.1%
	[問2]		4	28.1%	
	※ [問3]	(1)	4	42.4%	
		(2)	4	58.3%	
		(3)	4	52.9%	
	※ [問4]	(1)	4	33.1%	
		(2)	4	37.7%	
(注1) ☆は部分正答も含めた割合					
(注2) ※は記号選択式の問題					

(4) 社会

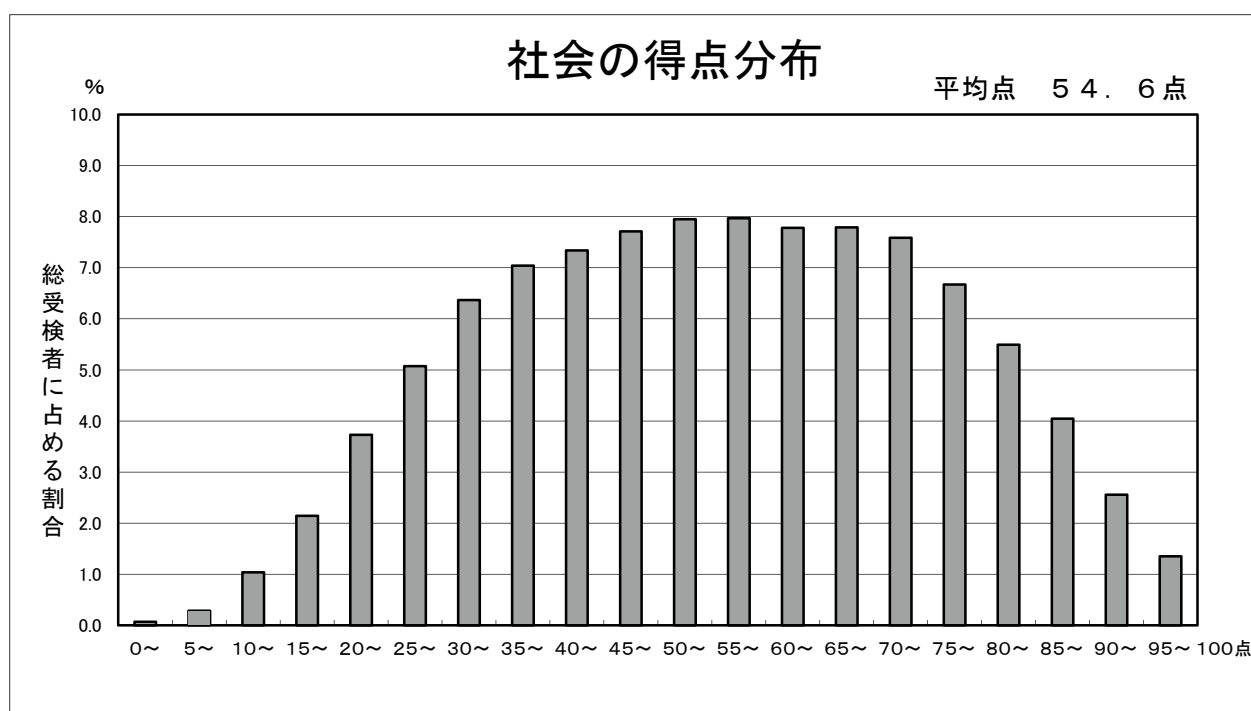
ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図やグラフ等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は54.6点となり，昨年度より2.4点下降した。
今年度は，分布のピークが昨年度の60点～64点から55点～59点に移り，80点以上の受検者の割合が15.5%から13.5%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- ① 資料から読み取った情報を基にした地形図の読図，我が国の歴史的・文化財の名称，江戸時代の風景画の作者，労働に関する法律の名称について問う問題とした。
- ② 農業を題材として，世界の気候及び主食となる農産物の生産量，コーヒー豆と茶の生産量を基にした国土と食文化の様子，我が国との結び付きについて問う問題とした。
- ③ 第三次産業を題材として，我が国の自然環境と情報通信産業などの様子，府県間の産業の結び付きの様子，地形図から読み取れる地域の変容と変容を支えた要因について問う問題とした。
- ④ 行政を題材として，飛鳥時代から室町時代にかけての各地に設置された行政機関の様子，幕府直轄地の奉行への命令が出された時期と奉行所の所在地，大正時代の東京の様子，大正時代から昭和時代にかけての我が国の法律の整備に関する主な出来事について問う問題とした。
- ⑤ 地方自治を題材として，地方公共団体の仕事を規定している日本国憲法の条文，住民が地方公共団体に対して行使できる権利，我が国の地方公共団体への事務・権限の移譲を目的とした法律改正数の動きについて問う問題とした。
- ⑥ 企業を題材として，16世紀から第一次世界大戦後の国際情勢，主な都市の歴史と都市に立地する企業の様子，我が国における経済成長率と法人企業の営業利益の変化について問う問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	5	64.8%	80.6%
	※〔問2〕	5	75.1%	
	※〔問3〕	5	88.7%	
	※〔問4〕	5	94.0%	
2	※〔問1〕	5	31.1%	29.2%
	※〔問2〕	5	33.2%	
	※〔問3〕	5	23.2%	
3	※〔問1〕	5	47.8%	☆60.4%
	※〔問2〕	5	57.8%	
	〔問3〕	5	☆75.8%	
4	※〔問1〕	5	52.2%	37.3%
	※〔問2〕	5	24.3%	
	※〔問3〕	5	32.0%	
	※〔問4〕	5	40.6%	
5	※〔問1〕	5	70.9%	☆61.2%
	※〔問2〕	5	68.0%	
	〔問3〕	5	☆44.8%	
6	※〔問1〕	5	19.6%	27.8%
	※〔問2〕	5	19.1%	
	※〔問3〕	5	44.7%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- ① 〔問1〕では，「ウ」という誤答が多かった。これは，Ⅱの図から読み取った情報と地形図の地図記号，距離，町名などを結び付けることができなかつたためと考えられる。
- ② 〔問3〕では，略地図中の国の位置について「Z」という誤答が多かった。これは，説明文に示されている自然環境の様子から略地図を活用して，国の位置を特定することができなかつたためと考えられる。
- ③ 〔問1〕では，「A-イ」，「D-エ」というAとDの県を取り違えた誤答が多かった。これは，説明文で示されている自然環境についての理解が十分ではなかつたためと考えられる。
- ④ 〔問2〕では，時期については「ウ」という誤答が多かった。これは，我が国における江戸時代の対外政策についての理解が十分ではなかつたためと考えられる。
- ⑤ 〔問3〕では，法律改正数の動きについて，毎年の法律改正の有無及び毎年の法律改正数に着目していない誤答が多かった。これは，Ⅰのグラフに示されている法律改正数の動きについて，Ⅱの資料と関連付けて読み取ることが十分ではなかつたためと考えられる。
- ⑥ 〔問2〕では，「B-エ」，「C-ウ」というBとCの都市を取り違えた誤答が多かった。これは，説明文で示されている地域の歴史的背景や産業の特色についての理解が十分ではなかつたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については，地形図の読図など基礎的・基本的な地理的技能を身に付けさせる指導を継続することが必要である。また，地図帳を活用し，複数の地理情報を関連付けて考察し，地域的特色を理解させる学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 歴史的分野では，我が国の歴史の大きな流れを，世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解させる指導を継続することが必要である。また，様々な資料を活用し，歴史的事象を多面的・多角的に考察させる学習活動の一層の充実が必要である。
- (ウ) 公民的分野については，日本国憲法の基本的な考えや，政治の諸制度を成り立たせている考え方や仕組みについて，社会的事象の関連や本質，意義を捉え，現代社会の見方，考え方を働かせることで解釈をよりの確なものとする学習活動の一層の充実が必要である。
- (エ) 論述問題については，社会的事象から課題を見だし，多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付けさせる学習活動の一層の充実が必要である。

(5) 理科

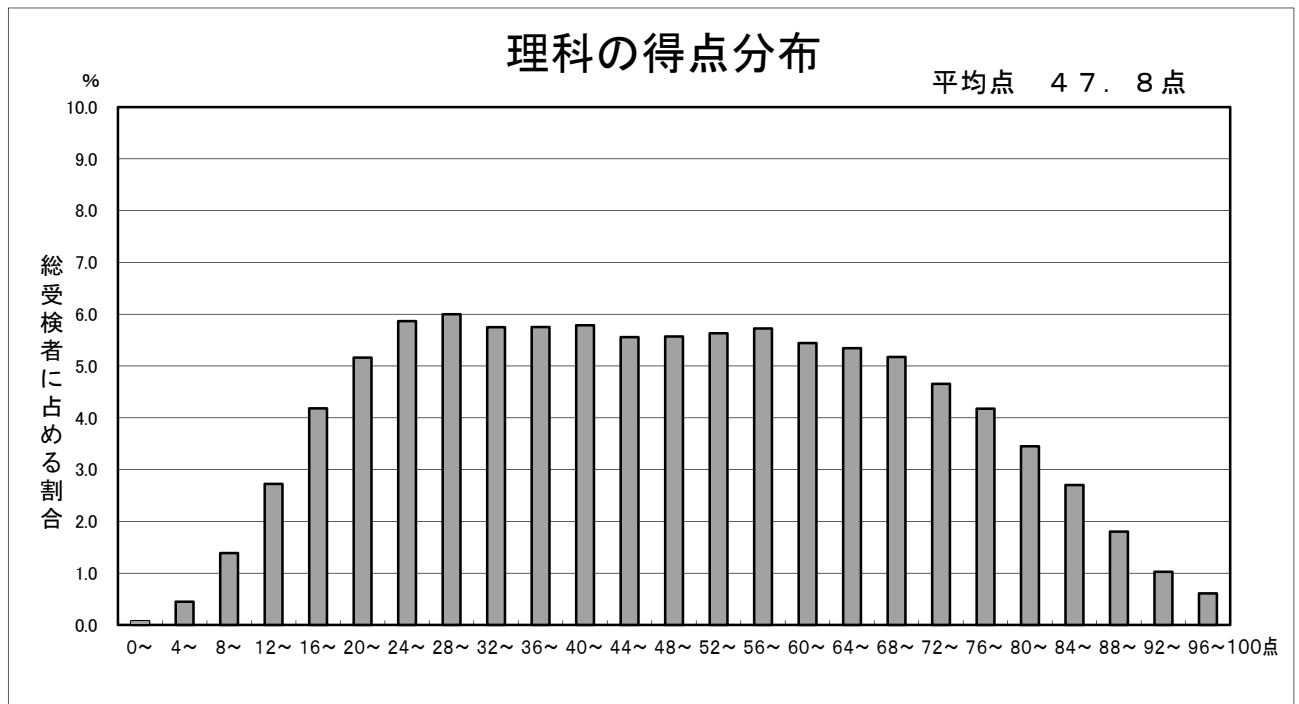
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察・実験や探究的な活動を通して科学的な思考力や表現力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（物理・化学）と第2分野（生物・地学）の各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事項の知識・理解及び科学的な思考力をみる。
- 3 地学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観測を通して科学的な思考力をみる。
- 4 生物的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察・実験を通して科学的な思考力をみる。
- 5 化学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力をみる。
- 6 物理的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は47.8点となり、昨年度より5.6点下降した。

今年度は、分布のピークは昨年度の68点～71点から28～31点に移り、80点以上の受検者の割合が13.1%から9.6%に減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる問題とした。
- 2 毎日の暮らしの中で気付いたことに関する事物・現象についての探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事項の知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 3 気象観測を通して、天気の変化についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 4 ツユクサを用いた実験を通して、光合成と呼吸についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 5 化学変化の量的な関係を調べる実験を通して、実験操作や質量保存の法則についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 6 コイルに流れる電流と磁界に関する実験を通して、電流がつくる磁界、コイル内の磁界が変化したときの電圧、磁界中の電流に働く力についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 [問4] の①では、「ア」という誤答が多かった。これは、電解質水溶液についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 2 [問3] では、「エ」という誤答が多かった。これは、密度の違いによる浮き沈みについての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 3 [問4] では、「ア」→「ウ」→「イ」→「エ」という誤答が多かった。これは、移動性高気圧の特徴と冬の典型的な気圧配置についての知識が定着していなかったためと考えられる。
- 4 [問2] の①では「イ」、②では「ア」という誤答が多かった。これは、実験操作の理由と対照実験についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 5 [問4] では、発生した気体の質量とベーキングパウダーの質量を用いて割合を求めた「16%」という誤答が多かった。これは、炭酸水素ナトリウムと発生した気体の質量の関係性を見いだす力が十分でなかったためと考えられる。
- 6 [問2] では、「コイルAに磁界が生じたため」という誤答が多かった。これは、コイルAを動かすことによりコイルA内部の変化する磁界についての理解が十分でなかったためと考えられる。[問4] の③では、「ア」という誤答が多かった。これは、コイルモーターの軸の部分のつくりや、回転するための仕組みについての理解が十分でなかったためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

(ア) 1と4の正答率から、各領域における基礎的・基本的事項の知識・理解についてはおおむね定着している。しかし、2[問3]と5[問4]の正答率から、観察・実験の結果と密度の値から物質を同定したり、観察・実験の結果と既習事項を関連付けて物質の割合を求めたりするなど、多角的、統合的に思考する力が十分ではない。引き続き、基礎的・基本的事項の知識・理解の定着を図るとともに、既習事項や観察・実験の結果、複数の事物・現象等を関連付けて考察する学習活動の一層の充実が必要である。

(イ) 6[問4]の正答率から、電流が磁界から受ける力について、実験結果と習得した知識とを関連付けて考察する力が十分ではない。観察・実験の結果を分析して解釈することに加え、習得した知識に基づき自ら進んで観察・実験の計画を立てるなどの科学的に探究する学習活動を充実させていくことが必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※ [問1]	4	43.0%	53.1%
	※ [問2]	4	72.8%	
	※ [問3]	4	56.9%	
	※ [問4]	4	40.2%	
	※ [問5]	4	48.4%	
	※ [問6]	4	57.2%	
2	※ [問1]	4	43.6%	37.9%
	※ [問2]	4	39.0%	
	※ [問3]	4	19.0%	
	※ [問4]	4	50.0%	
3	※ [問1]	4	42.0%	44.1%
	※ [問2]	4	62.6%	
	※ [問3]	4	39.1%	
	※ [問4]	4	32.8%	
4	※ [問1]	4	78.1%	59.8%
	※ [問2]	4	45.5%	
	※ [問3]	4	55.8%	
5	※ [問1]	4	36.4%	☆25.1%
	※ [問2]	4	33.7%	
	※ [問3]	4	23.8%	
	[問4]	4	☆6.3%	
6	※ [問1]	4	31.7%	☆20.9%
	[問2]	4	☆22.5%	
	※ [問3]	4	27.8%	
	※ [問4]	4	1.5%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題